

1. 評価報告概要表

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
当ホームは森林公園に隣接し、大変自然豊かな環境の中にある。広い敷地内には自家菜園があり、ガーデニングや収穫の喜びを味わうことができる。入居者の好きな事や得意な事、個々の役割を発揮できるように支援している。地域の人々とも少しずつ交流ができています。入居者の生活記録、介護計画書、申し送りノートなどが整備されている。管理者を中心に職員全体がよりよいケアを目指して前向きに実践し、入居者が「その人らしい」心豊かな暮らしができるよう質の高いサービスを提供している。	
	特記事項(※優先順位の高い要改善点について)
I	ホームの理念がパンフレットや契約書に明示され、面会簿等といっしょに玄関に置いてあるが、さらに一目で目標がわかるように色紙などに短い文章で書き、玄関や廊下の見やすいところに明示してほしい。
運営理念	
II	食事中のテレビの音量が少し大きいように感じられた。食事中は入居者はあまりテレビを見ていないようなので、消してもよいのではないかと。入居者と職員で話し合ってほしい。
生活空間づくり	
III	介護計画は全職員の意見を取り入れるよう努めているが、聞き出せない事もある。会議などに参加できない時は意見や希望をメモにして提出したり、ケアをする中で意見を伝えるなど、全職員の意見が反映されるような仕組み作りが期待される。管理者は職員とよく話し合って入居者のペースで暮らせるよう配慮することが望まれる。
ケアサービス	
IV	改善点は特になし。よりよい体制作りと発展に期待したい。
運営体制	

分野・領域		項目数	「できている」項目数
			外部評価
Ⅰ 運営理念			
①	運営理念	4項目	3
Ⅱ 生活空間づくり			
②	家庭的な生活環境づくり	4項目	4
③	心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	5
Ⅲ ケアサービス			
④	ケアマネジメント	7項目	6
⑤	介護の基本の実行	8項目	7
⑥	日常生活行為の支援	10項目	10
⑦	生活支援	2項目	2
⑧	医療・健康支援	9項目	9
⑨	地域生活	1項目	1
⑩	家族との交流支援	1項目	1
Ⅳ 運営体制			
⑪	内部の運営体制	10項目	10
⑫	情報・相談・苦情	2項目	2
⑬	ホームと家族との交流	3項目	3
⑭	ホームと地域との交流	4項目	4

2. 評価報告書

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己					
	I 運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1	○			管理者は、当ホーム開設時からグループホームの社会的役割について住民への理解を求め説得してきた経緯もあり、当ホームの方針や目標について、ミーティングや日々の介護の中で職員に伝え、共有化している。	
2	3		○		当ホームの理念は利用案内時の説明文書に明示され、面会簿と共に玄関に置いてある。さらにわかりやすく短い文章で書かれたものが玄関や廊下など見やすいところに明示されていることが望まれる。	色紙などにわかりやすく書き、見やすい場所に明示することが望まれる。
3	4	○			利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5	○			ホームページを立ち上げ、当ホームの様子を紹介したり、パンフレットの配布を通して、地域に対しての広報に取り組んでいる。	
運営理念 4項目中 計		3	1	0		
	II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6	○			玄関前はゆったりしており、道路との境には、沢山の大きなプランターが置かれ、草花が植えられている。1階建てで、威圧感もなく訪問しやすい雰囲気である。	
6	7	○			ソファや手づくりのベンチが置かれ、ゆったりと、あたたかで家庭的な雰囲気が作られている。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			居間のちょっとした空間や廊下などに、ベンチや大きなソファがあり、思い思いに過ごせる場所がある。	
8	9	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			自分のベッドを使用したり、床に布団を敷いたり自由である。カーテンなども好みのものや自宅と同じ柄のものを使用している。家族の写真や手作りの人形などが飾られている。家族には、使い慣れた物の持ち込みを依頼している。	
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			4	0	0		
		2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり					
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			入居者に合わせて、流し台の高さを10cm程低くしたり、手すりの設置などに工夫がされている。ホームの大きな冷蔵庫の下の部分には入居者が使用できるスペースがある。	
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をごさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)	○			各居室には表札がついている。トイレや風呂には、今のところ目印がなくてもわかるため特に表示はしていない。今後に向けては入居者の状況に合わせて工夫してほしい。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)		○		緑に囲まれているためか、日ざしはとてもやさしく、照明などにも配慮している。食事中はテレビをつけているが、音量が少し大きく感じられた。	耳の遠い入居者もいるが、食事中はあまりテレビを見ていないので、消してもよいのではないかと。音量のこととあわせて入居者と職員とで話し合ってもらいたい。
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のおどみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。	○			エアコンは入居者の状態に合わせて随時調節している。自分でできる入居者には任せてある。換気のため、なるべく窓の開放を心がけている。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			手作りの日めくりカレンダーがある。 時計も見やすい所に設置してある。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)	○			広い自家菜園があり、園芸用品が用意されていて、入居者は農作業やガーデニングを楽しんでいる。手芸の好きな入居者には、糸や針、布などを用意している。入居者にテーブルを拭いていただくように、布巾が台所の見やすい所に掛けてある。	
心身の状態にあわせた生活空間づくり 6項目中 計			5	1	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			本人の生活歴をしっかりと把握し、排泄や睡眠、食事量などのチェックシートを作成し、入居者や家族のニーズを引き出し、その人らしい介護計画を作成している。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。		○		介護計画を、すべての職員の意見を採り入れては作成できていない。計画の内容は、日常的に職員の目に触れるようにして、共有している。	パートの職員や、夜勤などで会議に出られない時は、自分の意見をメモにして提出するなど、全職員の意見が反映されるような仕組み作りを工夫してほしい。
17	22	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。	○			入居者の毎日の生活の中から、ニーズを引き出して作成している。家族からは訪問時に会話の中で聞いている。遠方のため面会の難しい家族からは、電話や手紙で意見を聞くように努めている。	
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時見直しを行っている。	○			決められた期間(3ヶ月)の見直しのほか、入居者の状態や家族の希望に応じて、随時見直しを行っている。	
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○			個別に日常の様子(入浴、外出、活動、洗濯等)や、排泄、食事、水分量など大変細かくチェックし、記録されている。夜間の様子もきちんと記録されている。	ホーム長、管理者は、記録を読み、入居者全体の状況を把握したことを示すために、確認印を忘れずに押印してほしい。
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実に言い、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			ミーティングや申し送りノート、時にはテープレコーダーを使用し、情報が職員に伝わるようにしている。申し送りノートをチェックした職員は、サインをしている。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			定期的に会議を開き、意見や気づきを出し合っている。緊急時には、個別会議も設けている。	
ケアマネジメント 7項目中 計			6	1	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27	○入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○			一人ひとりを尊重しその人に合わせた言葉かけや対応をしている。	
23	28	○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気で見守っている。	○			職員の言葉かけや態度は、おだやかでやさしい。	職員の性格や組み合わせによっては、スピードやトーンがきつい時もあるようなので、管理者からの注意や、組み合わせの工夫を期待したい。
24	30	○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○			一人ひとりの生活歴や貴重な体験、思い出をケアに活かしている。訪問調査時にも、戦争体験や家族とのエピソードなどが話されていた。また、手芸が得意な入居者は手作りの作品を皆にプレゼントして喜ばれたり、その人らしく、生き生きとした暮らしをしている。	
25	32	○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		○		職員によるが、時によっては職員の都合で業務を進めることもある。	管理者は職員とよく話し合い、入居者のペースで暮らせるように配慮することが望まれる。
26	33	○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○			食事、散歩、買い物、入浴など日常の場面で、入居者が自分の希望を伝えたり、好きな物を選ぶように支援している。職員は待つ姿勢を大切にしている。	
27	35	○一人で行えることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○			食事前のテーブルを拭いたり、全員の漬物を切り、盛り付けたり、外での農作業やガーデニングなど、入居者が自分でできる事をしてもらい、自立支援をしている。	
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○			全職員が、身体拘束のないケアを行っている。	
29	38	○鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○			日中は出入口は開放している。 入居者の外出傾向を把握し、近所の理解、協力を得ている。	
介護の基本の実行 8項目中 計			7	1	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43	○馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			茶碗、湯のみ、箸などは個人の物を使用している。 その他の食器も家庭的なものを使用している。	
31	44	○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。	○			一口大に刻むなど、食べやすく、盛り付けなどもおいしそうに工夫されている。	
32	45	○個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおそ把握している。	○			毎食、記録をし、栄養状況を把握している。	
33	47	○食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○			職員も入居者と一緒に、会話をしながら食事をし、さりげなくサポートをしている。	
		2) 排泄					
34	48	○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			夜間も含め、記録により把握した個々の排泄パターンに応じてトイレ誘導するなど、支援している。	
35	50	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			さりげなくトイレ誘導している。	
		3) 入浴					
36	53	○入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			入浴は、希望に応じていつでも、何回でもできる。 訪問調査時、一番風呂に入るという入居者が入浴中であった。	
		4) 整容					
37	56	○理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			なるべく、なじみの店に通えるように支援している。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			プライドを大切にした支援をしている。入居者は清潔で、小ざっぱりにしている。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通した安眠策を取っている。	○			日中はなるべく身体を動かし、なかなか眠れないときには、会話をしたり、お茶を飲んだり、眠くなるのを待つなどの対応をしている。	
日常生活行為の支援 10項目中 計			10	0	0		
		(3) 生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			金銭管理のできる入居者には、自分で管理をしてもらっている。レジなどでの支払いの場面でも支援している。	
		(4) ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			菜園、ガーデニングなどの場面づくりや、テーブル拭き、食器洗い、漬物の盛り付けなど、入居者それぞれの役割ができるように支援している。	
生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5) 医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)	○			気軽に相談できる協力医が確保されている。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			ケアが在宅でできるようになったら、なるべく早く退院できるように医療機関と話し合っている。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			医師の指導のもとに、市町村で行う健康診断を利用している。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			買い物、散歩など、外出を心がけている。家事や畑仕事など、ホームの生活の中の個々の役割を通して、楽しみながら機能低下の防止ができるように取り組んでいる。	
		(7)入居者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			必要な場合には、家族の協力を得て、双方でよく話し合う。他の入居者に不安を与えないように配慮している。	
		(8)健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			入居者の自立度が高いため、入居者自身の能力を大切にし、なるべく本人に任せている。寝る前に歯磨きをしている。	口腔内の清潔保持が確実にできるよう、毎食後、職員が確認するように配慮することが望まれる。
48	83	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			個々の入居者の名前のついたプラスチックのケースに薬を入れて管理している。薬の内容の変更があった時は、職員全員へ注意を促している。	
49	85	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○			マニュアルがあり、いつでも見られるようにしてある。緊急時にはすぐ救急車を呼び、協力医に指導を仰ぐなどの対応をしている。	救急車が来るまでの手当てが必要であり、全職員が応急手当の定期的な学習をすることが望まれる。
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			インフルエンザの予防接種を実施している。手洗い、うがいなどを励行している。入居者全員が血液検査を受ける予定がある。	
医療・健康支援 9項目中 計			9	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居者の地域での生活の支援					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			自治体主催の喫茶室(月2回)に出かけたり、散歩、買い物など、外出を楽しんでいる。	
地域生活 1項目中 計			1	0	0		
		4. 入居者と家族との交流支援					
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			面会簿には、家族の訪問の記録も多く掲載されている。訪問時には、家族はお茶を自由に利用でき、職員は入居者の近況の報告をするなど、訪問しやすい雰囲気を作っている。	
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
		IV 運営体制 1. 事業の統合性					
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			法人代表、管理者共にケアの現場で実践しているので、連携が十分にとれている。それぞれの立場で、ホームの質の向上に取り組んでいる。	
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			職員の意見を十分に反映させながら、最終的には経営者、管理者間で決定している。	
		2. 職員の確保・育成					
55	101	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			入居者の生活の流れを支援できるようなローテーションを組んでいる。手薄な時など、状況に応じてホーム長や管理者が応援に入る。	
56	103	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○			職員の研修参加は、積極的に支援している。研修内容は、文書や会議などで、職員に発表し共有している。	開設以来、職員も除除に揃ってきたので、フォローアップ研修など、計画的な受講が望まれる。
57	105	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○			ミーティングによる意見の交換、職員間での会話、管理者との話し合いなどの中で実施している。当ホームの職員は、今のところ、あまりストレスを感じていない様である。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居時及び退居時の対応方針					
58	107	○入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)	○			診断書、生活歴等により、十分に検討している。	
59	109	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			退居事例はあるが、ホームから退居の申し出をした事例はない。 入居者・家族への十分な説明をし、退居先へスムーズに移れるように支援する体制がある。	
		4. 衛生・安全管理					
60	112	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			ホーム内は清潔である。素足で歩いている人もいる。流し台、まな板、布巾や洗濯機など、衛生的であり、管理が行き届いている。	洗面台に掛けてある手拭き用の手ぬぐいは共用であるため、衛生面から適当であるかどうか検討してほしい。
61	114	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			薬は事務室で保管し、洗剤は棚の上に保管し、刃物などは夜間撤収している。取り決め通り実行されている。	
62	116	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等)	○			事故報告書は詳細に報告されている。 ヒヤリハットなども記録されている。全職員が共有し、再発防止に活かしている。	
内部の運営体制 10項目中 計			10	0	0		
		5. 情報の開示・提供					
63	118	○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			情報を積極的に提供し、説明も明確であり、協力的である。	
		6. 相談・苦情への対応					
64	119	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			契約書には、ホーム側の窓口及び職員の名前が、明示されている。	相談・苦情受付の明示を、玄関など目につく所に張り出すことが望まれる。また、第三者(外部)窓口についても明記してほしい。
情報・相談・苦情 2項目中 計			2	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		7. ホームと家族との交流					
65	122	○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			家族へ個別に便りをしたり、面会時の声かけを行っている。	家族の意見が引き出されるよう、呼びかけの文章や、アンケートを添えるなど、工夫することが期待される。
66	123	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。（「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等）	○			ホーム便りなどはないが、月初めに、暮らしの様子など写真を添えて、便りを個別に出している。ホームページも開設している。	
67	126	○入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○			ホームで立て替えている諸費用は、出納を明らかにし、領収書、レシートなどで月末清算している。	
ホームと家族との交流 3項目中 計			3	0	0		
		8. ホームと地域との交流					
68	127	○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。	○			市町村事業の受け入れは「可」としている。市町村との連携は、密にし、積極的に関わりはあるが、行政側からの委託までには、至っていない。	
69	130	○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。	○			収穫した野菜をおすそ分けしたり、散歩の途中で立ち話をしたり、地域の人々との交流に取り組んでいる。	たとえば、ホームの設備を使ってカラオケ大会を開催したり、農作物の収穫を一緒にしたり、交流の場を提供してホームに来訪してもらう工夫が期待される。
70	132	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。（商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等）	○			隣接する小学校へ迷い込む入居者があるので、説明書と写真を学校へ提出し、理解を得た。地域や商店の人々にも、理解されるように働きかけている。	警察や消防へも、積極的に協力の依頼をするよう望まれる。
71	133	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等）	○			近隣の人々からの、介護相談や在宅介護サービスの問い合わせに対応している。認知症を理解してもらう場として、見学会やボランティアを受け入れていく意向がある。	今までの活動の成果や気づきなどを地域へ伝えて行く取り組みが期待される。
ホームと地域との交流 4項目中 計			4	0	0		

※ (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
(2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。